

〔調査結果の概況〕

市では、市民の皆様の意向を踏まえた市政を推進していくため、市民意識調査を実施しております。

平成17年度については、定住意識と地域の住みごこち、佐倉市全体に対するイメージ、市の政策として力を注ぐべき事項、地域活動と市行政とのかかわり、テーマ別の調査事項（道路環境、日常の買い物動向の2つのテーマ）、市施設の利用について、に関するアンケートを実施しました。

1. 定住意識と地域の住みごこち

自らの地域についての住みごこちと日々の暮らしを営む上での満足度について、また佐倉市を今後も住み続ける場として考えているかを伺うため、地域の住みごこちについて1問（問1）、満足度について1問11項目（問2）、定住意識について2問（問3、問4）を設けました。

その結果、現在の居住地域について、「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」と回答した人の割合は84%（494人）でした。また、現在の居住地域に住み続けたいかとの質問に対しては68%（409人）の人から「住み続けたい」との回答が得られました。

一方、「他の市町村へ転出したい」または「市内の他地区に転居したい」と回答した人は17%（99人）でした。その主な理由としては、「通勤・通学に不便である」が21.2%（21人）、「商店街が近くになく日常の買い物に不便である」が18.2%（18人）、「自己の都合による」が14.1%（14人）という結果となっており、際立った理由はないものの、生活に密着した利便性を理由として挙げている人が多く見受けられました。

自分の住んでいる地域を見た場合の満足度を聞く設問では、「満足している」および「どちらかといえば満足している」を選択した人数が有効回答数の半分以上を占めている項目は、11項目中7項目となっていました。

この割合の一番高かったのは「周辺の自然環境」で、全体に占める割合は回答者数の82%（488人）でした。続いて「日常の買い物の利便性」が64%（371人）、「隣人や町内会との人間関係」が63%（372人）、「公民館・図書館などの文化施設整備」が59%（349人）、「公園などの憩いの場所の確保」が59%（348人）、「道路や下水道などの都市基盤整備」が54%（319人）、「通勤・通学の利便性」が52%（309人）となっています。

満足しているとした割合が半分を割っている項目は、低い順から、「働く場所の確保」が25%（143人）、「保健・医療・福祉体制の充実」が43%（2

53人)「自治会活動、ボランティア活動等の充実」が45%(267人)、「子育ての環境整備」が46%(274人)となっています。ただし、半分を割った4項目中、「働く場所の確保」のみが「どちらかといえば不満」と「不満」を選択した人が「満足している」「どちらかといえば満足している」を選択した人を大きく上回っておりましたが、他の3項目においては、「満足している」「どちらかといえば満足している」を選択した人が「どちらかといえば不満」「不満」を選択した人よりも上回っており、顕著な不満傾向があるものとは認められませんでした。

2. 佐倉市全体に対するイメージ

市全体に対してどのようなイメージを持っているかを伺うための質問を3問(問5～問7)設けました。

その結果、プラスのイメージとして「自然環境が良い」と「地域の歴史や伝統が豊かである」と評価する人が有効回答者数の65.6%(779人)と多数を占めました。

また、市内の好きな場所や行事等に関する質問においても、国立歴史民俗博物館(15.2%)、川村記念美術館(11.4%)、佐倉チューリップまつり(9.8%)、佐倉城址公園(9.7%)を挙げた人が多く、自然や文化に関する関心が高いことが分かりました。また、平成17年度は中止した「佐倉・国際印旛沼花火大会」を挙げた人も佐倉城址公園を挙げた人と同数(9.7%)でした。

マイナスのイメージとしては、際だった項目はないものの、「通勤通学の利便性が悪い(14.4%)」「防犯対策が十分でない(13.1%)」「買い物が不便である(12.5%)」「保健・医療・福祉の水準が低い(11.2%)」を選択した人が多く、生活の利便性や福祉の面、安全性への関心の高さがうかがわれました。

3. 市の政策として力を注ぐべき事項

今後の市政を進める上で、特に力をいれるべきであると考える事項についての意見を伺うため、主な事務事業として38項目を掲げた選択肢の中から、5項目を選択していただきました。

多くの市民から関心を寄せられていた項目は、選択した人の多い順に「歩道や自転車・歩行車道の整備(8.0%)」「高齢者医療や介護保険サービスなどの高齢者福祉の充実(7.0%)」「地震や水害などに対する防災体制の強化(5.5%)」でした。

また、関心の高い項目（上位10項目）中、都市・土木関係が3項目（1位、7位、9位）、交通・防犯・防災関係が3項目（3位、4位、5位）を占めました。

このほか、環境関係で2項目（5位、9位）、保健・医療・福祉関係で1項目（2位）、商工業振興関係で1項目（8位）が選択されていました。

5位と9位については同率のため、それぞれ2つあります。

4. 地域活動と市行政とのかかわりについて

地域の活動に関する考えと地域活動への参加の度合い、市政に関心があるかどうか、市政の情報を入手する方法や市政に関するどのような情報を得たいか、また佐倉市ホームページに関する意見を伺うため、質問を8問（問9～問16）設けました。

まず、「地域の人々のつながりや、まとまりが薄れてきている」という意見に対してどう考えるか伺ったところ、55%（328人）の人が「その通りだが、時代の流れでやむを得ないと思う」と答えました。

次に、コミュニティ活動（同じ地域に住む人たちが、自分たちの手で自主的に住みよい地域社会を作っていこうとする活動）が必要かどうか伺ったところ、「必要だと思う」「ある程度必要だと思う」と答えた人が全体の89%（533人）にのぼりました。

次に地域活動に対する参加の度合いを伺った質問では、「よく参加する」および「たまに参加する」を選択した人数が有効回答数の半分以上を占めている項目は、「町内会や自治会の活動（回答者数の58%、349人）」1項目に留まりました。この次に多かった項目は、「環境保護・清掃美化活動（42%、250人）」ですが、これ以外の項目では「よく参加する」および「たまに参加する」を選択した割合が半分を大きく割りこみました。

特に「老人クラブの活動（8%、46人）」と、「高齢者や障害者のためのボランティア活動（10%、58人）」は、関心の低さが際立ちました。

次に、市行政に対する関心の度合いを伺ったところ、有効回答数のうち74%（448人）の人が「関心がある」または「ある程度関心がある」と答えました。また、市行政に関する情報を得る手段を伺ったところ、「こうほう佐倉」と答えた人が有効回答数の46%（535人）、「町内回覧板や掲示板」と答えた人が27%（318人）でした。

次に、市から得たい情報の種類を伺ったところ、「医療、保健等健康に関する情報」が17.3%（290人）と一番多く、次に「市行政の状況など、市政に関する情報」が11.6%（195人）、「公民館、コミュニティセンター、

図書館などの情報」が10.8%（182人）と続きました。

次に、市政に関する情報を得る手段で「市のホームページ」を選んだ人（51人、4%）に対して、ホームページ内のどんな情報が役に立ったか、またどんな情報を望むか伺ったところ、役に立った情報としては「手続方法、手続窓口の情報」が最多（30人）でした。また、望む情報としても「各種証明手続の情報」が最多（32人）でした。

5. テーマ別の調査事項

市政を推進する上で参考とするため、2つのテーマに関して意見を伺いました。

（1）道路行政について

日常生活において利用する頻度の高い市内の道路について、どのように考えているか伺うために、質問を4問（問17～問20）設け、意見を伺いました。

まず市の道路行政についてどう思うか伺ったところ、項目ごとの割合では「普通」と答えた人が39%（232人）と最多でしたが、「どちらかといえば悪い」「悪い」と答えた人の割合が44%（264人）と、「よい」「どちらかといえば良い」と答えた人の割合（16%、93人）を大きく上回りました。

次に、市の道路問題は何と思うか伺ったところ、「狭い道路（27%、299人）」と「歩道の未整備（23%、256人）」を答えた方が全体の半数を占めました。

次に、市の道路問題が「交通渋滞（14%、151人）」と答えた人に、それをどんな時に感じるか伺ったところ、「朝夕の通勤渋滞」と答えた人が最多（27%、90人）でした。

次に、市内の道路問題解決に有効な手段は何か伺ったところ、「渋滞交差点での右折車線の整備」が15.9%（172人）と最多でした。また、「歩道の新設および歩道の拡幅整備」についても、15.4%（167人）の人が有効な手段であると答えていました。なお、「バイパス等の新たな幹線道路の整備」については先述した2項目に次いで多くの人（11.5%、125人）が選択していました。

（2）日常の買い物動向について

日常生活を営む上で必要な買い物を通して生活圏を把握するとともに、商業振興の基礎資料とするため、質問を5問（問21～問25）設け、意見を求めました。

日常の買い物をする際の交通手段で最も多かったのは「自家用車」で、有効回答数の59%（355人）を占めていました。また次に多かったのは「徒歩

(18%、106人)」と「自転車・バイク(17%、102人)」でした。

次に、商品別の購入場所に関する質問について購入先を3箇所選択してもらったところ、食料品について、「野菜」「肉」「魚」「その他食料品」については、市内で購入している人が有効回答者数の65%以上を占めていました。また、「家電製品」「本・CD」についても50%以上の人が、「日常衣料品」についても40%以上の人が市内で購入していました。

しかし、「高級衣料品」「家具」「スポーツ用品」「贈答品」については、市内で購入する人が40%を割り込んでおり、特に「高級衣料品」は12%(102人)と低い結果となりました。この「高級衣料品」については、東京都(25.7%)船橋市(25.3%)千葉市(22.8%)と答えた人が多くいました。

また、高級衣料品と贈答品を除いた日常使用している品目の、佐倉市以外の購入先としては八千代市が9項目中8項目と、圧倒的に多い結果がでました。

次に、市内で買い物をする場合の購入先について、食料品は、「野菜」「魚」「肉」「その他の食料」全て9割以上がスーパーマーケットとの回答でした。また、地元商店が他を超えているのは、「家具」「家電製品」「本・CD」「スポーツ用品」の4項目でしたが、「スポーツ用品」については、スーパーマーケットとの差が1%未満と、非常に僅差でした。

次に、どのような店舗で買い物をしたいかとの質問に関しては、「豊富な品揃えのあるお店」と「品質のよいお店」を挙げた人が、それぞれ21.6%(376人)と18.3%(318人)で多く、次いで「駐車場が整備されているお店」「価格の安いお店」「親切な対応をしているお店」と続けました。

次に、地元の商店についてどう感じるかという設問では、「対応・雰囲気」「価格」「開店時間」「閉店時間」については、ある程度評価されたものの、「品揃え」と「駐車場」については約4割以上の人が不満と答えていました。

6. 市施設の利用について

昨年度まで年2回、来庁者を対象に市施設各窓口に設置したアンケート用紙によって行っていた「お客様アンケート」を、定期的かつ広範囲に利用者の意見や要望を伺い、継続的に調査分析するため、今年度は市民意識調査の一項目として実施しました。

まず、調査票が届く2ヶ月までの間、市の施設を利用したか伺ったところ、56%(335人)の人が「ない(利用していない)」と答えました。

次に、市施設を利用した人(42%、248人)に、施設を利用したのはいつか、伺ったところ、利用月については「9月」と答え人が全体の52%(1

36人)を占めました。また、月のうちいつ頃(上、中、下旬)利用したかという質問では、それぞれ38%、29%、33%と、ほぼ均等の結果が出ました。

続いて、利用した曜日を伺ったところ、月曜日の利用が少ない(5%)が目立ちましたが、これは月曜日が休館の施設が多いためと思われます。また、休館明けの火曜日と土曜、日曜日の利用が他の曜日に比べて多いのも特筆すべき点だと思われます。

続いて、利用した時間帯を伺ったところ、午前、午後共に有効回答数のほぼ半分ずつを占め、夜間の利用は7%(20人)でした。

次に、利用した施設を伺いましたが、有効回答数のうち、出張所などの本庁舎以外の施設を利用した人が89.2%と、本庁舎以外の施設利用が圧倒的多数を占めました。また本庁舎以外の施設を利用した人のうち40%の人が、図書館を利用していました。

次に、訪れた課又は施設の対応について伺いましたが、全ての項目で有効回答者数の95%以上の人から「普通」以上の評価を得ました。